

第三回 桜町再開発事業における新たな集客施設整備検討委員会 議事概要

【日時】 平成25年10月15日（火）15:00～16:45

【場所】 熊本市議会 議会棟2階 議運・理事会室

【出席委員】 全20名のうち17名出席 ※以下、敬称略

(委員長)	熊本大学	理事・副学長	両角光男
	熊本学園大学商学部商学科	教授	宇野史郎
	一般財団法人熊本国際観光コンベンション協会	専務理事	齊藤寛
	在熊マスコミ社長会（熊本放送株式会社 取締役兼総務局長）		杉光定則
	熊本市中心商店街等連合協議会	会長	武本純一
	熊本大学工学部建築学科	准教授	田中智之
	熊本大学	理事・副学長	原田信志
	熊本経済同友会	事務局長	藤好清隆
	一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会	副会長	淵田俊郎
	熊本商工会議所	専務理事	松山正明
	桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント委員会会長 （熊本市都市政策研究所所長）		蓑茂壽太郎
	熊本城下のまちづくり協議会 桜町地区会議	会長	吉丸良治
	熊本市議会	市議	藤岡照代
	熊本市議会	市議	下川寛
	熊本市議会	市議	田辺正信
	熊本市議会	市議	江藤正行
	熊本市役所	副市長	牧慎太郎
※欠席委員	株式会社アドコム（熊本県広告業協会会員）	常務取締役	後藤亮一
	熊本県立大学環境共生部居住環境学科	准教授	西英子
	熊本市議会	市議	津田征士郎

【議事概要】

1. 開会

2. 審議スケジュールについて

(委員長) 審議に入る前に、一点相談がある。施設の方針については、前回の委員会で A 案から D 案の提示があったが、審議の結果、多目的ホールを置かないという C 案、一層増やす D 案について検討し、加えてメインホールを一階に下ろすという E 案についても検討していくことになっていた。

今回、C 案・D 案の改定案と E 案の提示がある。これについて審議していただくが、各案の想定催事件数あるいは経済波及効果についても資料を用意するということだった。ただ、施設構成がはっきりしない状況で想定催事件数や経済波及効果を上手く出せない。そういうことから、本日は、特に施設構成について引き続き集中的に審議し、今回の審議予定であった想定催事の開催件数、入場者数、経済波及効果については、次の第四回委員会で、事業費の提示がある。前回も事業費が出ていたが、前回は類似施設の単価をもとに出したものだ。それに対し、再開発の中でどのくらいの数字になるか出てくるということなので、それに合わせて、想定催事の開催件数、入場者数、経済波及効果について審議をさせていただくという段取りで進めさせていただきたい。よろしいか。

(他 委員) (はい)

(委員長) それでは、今申した数字については、今回の議論を踏まえて、次回提示させていただき、ご審議いただきたい。それでは、本日の審議について、お手元の資料で①、②、③とあるが、それぞれ分けて審議をさせていただきたい。まずは①のメインホールでの想定催事について説明をお願いしたい。

3 メインホールでの想定催事について・・・P 1～ 2

(事務局) 資料説明

(委員長) メインホールについて、どういう催事を想定して作っていくかという確認をいただいた。形状や材質の使い方によって、全てに合うホールというのは作りにくい。今回は、国際会議というものをメインに作っているので、今説明があったような特性がある。

(委員) 今の説明の中で、素朴な疑問で聞くが、残響時間の関係から、ア (P1 表、式典・集会・講演会) とイ (電気音響系) が適しているということで、キ (ミュージカル) 以降については、難しい、問題があるとのことだが、残響時間を確保したときに、式典や講演会に問題があっても難しいのか、残響時間を確

保するために、今の席数を形状を含めて変更する必要があるのか。やはり施設の格というのを考えていかななくてはいけない。コンサートは格が劣るということではなく、式典やコンサートに特化するととなると、伝統的な音楽やオペラとか吹奏楽のコンサートなどが開けないとなると、大きくコンセプトに関わってくる。例えば、残響時間を確保しながら、形状を確保できるなど出来るのか。

(事務局) 集会、ポップス系コンサートなどスピーカーを使ったコンサートは、ストレートな音が聴きやすい。講演会では残響時間を持つことによって、発言内容がはっきりしなくなる。残響時間は、集会、講演会では短い方がよい。ただ、このようなホール形状において、先ほどの2ページ目の右側にあるステージ裏に反射板があるが、そういうものを設置、仮設で設置することにより、若干残響時間を長くすることが出来る。

(委員長) 県劇のコンサートホールで講演すると、気持ちが良い。自分が言った声が遅れて帰ってくる。ただ、講演をずっとやると、わずらわしく感じてくる。出来るだけ音が遅れて返ってこないようにしなくてはならない。音楽の場合、出来るだけ長く響いてほしい。その辺のどっちでも出来るというのは、設備的に行えば出来ないことはないが、お金の問題がある。出来るだけホールの形状、コンサートは天井を高くするし、県劇ホールでは客席と一つの空間になっている。垂れ壁がある。そういう作り方で、国際会議、会議を中心にやっていくので、若干音楽の方は制約が出てくる。同じようには使えない。迫がなければ駄目という話は、かなり致命的。ただ、吹奏楽が出来ないということではない。響きが短いので、もっと気持ちよく演奏できるはずが、ちょっと物足りないということだと思う。建築家からどのように思うか。

(委員) 可変の音響反射板で大部分は対応出来る。全部出来ないということはない。

(委員長) 音響板を上げたり下げたりする。お金をかければ出来るということではないか。

(委員) 可動式の音響反射板を、お金をかければ出来るということだが、絶対駄目ということではなく、設置するというのも今後考えていけるということか。

(事務局) 想定催事の幅をどこまで持たせるかということによって、可動式の反射板を設置することも考えていかななくてはならない。

(委員) これだけの設備を整えていくためには、ある程度の想定を入れた考え方を持っていたきたい。お金がかかるかもしれないが、折角作るということに対して、音響の残響時間を可動式で可能であれば、しっかり取り組んでいただきたいということを要望しておきたい。

(委員長) 余計なことを言ったかもしれないが、結構大変である。実際、余裕をもって

天井を高くしなくてはならない。ただ、設備的にある程度対応できることもあるだろうから、そういうところは、可能な限り努力してほしい。催事想定はこのようなところである。ただ、予算の制約はありつつも、出来るだけいろいろなものを引き受けられるようにしてほしいというご意見を頂いた。それでは、次に進めさせていただきたい。

4. メインホールの収容人数について・・・P 3

(事務局) 説明

(委員長) 3,000席のメインホールという目標でやってきた。設計して入れてみると、少し小さくしなくてはいけないかもしれない。特に舞台をしっかり取ると厳しいかもしれないという話だった。その中で、舞台の一部を下げて客席と一体化するという案も前回あったが、それを踏まえて、細かく寸法を取りながら席を配置してみたらこのような数字であるということだ。基本的に2,300が標準で取れて、舞台をちょっと下げて500増えて2,800、さらに舞台の脇に仮設と、この部分は下がらない、舞台と同レベルということだが、あと100席ずつ増えて、3,000くらいまでは何とかなる。ただ、3,000入れるとなると、後で避難階段をたくさん取らなくてはならないという問題が別途出てくると思うが、ホール自体としてはこのくらい取れるということで設計を進めたいということだ。後は、大事なこととして、実は、座席の間隔や座った幅がある。今の市民会館よりは大きめになっている。他都市の例でいくと、福岡国際会議場に近いもので想定してある。

(委員) 座席数の確保と、スペースの確保は良く判ったが、集会、コンベンションの総会を行った場合、ステージに上がる来賓数が2,000人を超えてくると50名を超えたり、あるいは100名近くステージに上がることがある。そういったことも踏まえて、現状の比較をしたい。ステージの奥行きが残が9mしかない。現状の市民会館、森都心プラザのステージの奥行きはどの程度か。

(事務局) 調べるのでしばらくお待ちいただきたい。

(委員) なぜ今の質問をしたかという、先般、大学のOB会の全国大会があつて、別府のビーコンプラザに行った。1,100名ほどの全国大会だったが、最初の式典の部分では、いわゆる役員メンバーならびに大学の関係者、学部長を含めた部分で、上がった人数で言うと約70から80名がステージに上がった。ビーコンプラザのステージの奥行きが15mほどあったからステージに上がったが、9mでは上がれないのではないか。そこら辺が3,000人規模の学会であれば違うかもしれないが、ステージに上がる想定数がどうなのか。現実的な問題として1,100名でそれくらい上がるので、いかがなものか。現実、

市民会館は奥行きが深い、森都心は逆に奥行きがなくて、ステージに上がる人をほとんど排除して、制限しなくてはならない。そういった集会をすることがあるので、その確認をしたい。

(事務局) 現在調べているところだが、市民会館が18mだったと思う。森都心ははっきり記憶していない。ただ、今回提案しているのは、2,300の固定席だった場合、ステージの奥行きは21mほど確保しているので、そういった総会には十分耐えられると考えている。ただ、3,000人収容した場合の催事としては、どうしても講演会や学会等での基調講演とか、そういった単独でステージに上がるものを想定している。ステージに何十人が上がるというものであれば、どうしても2,300がマックスになってくる。それ以上だった場合は、同時に別会場で、ケーブル等で繋ぐなどの方法を取るしかないと考えている。

(委員長) 恐らく、コンサートもそうだが、日舞、歌舞伎をした場合、建て込みがあると思う。建て込みを考えると奥行きが9mというのは実感として短いと思う。

(事務局) もう一つが、昇降するステージを6分割にする方法を取ることと考えている。それによって、前方の3つを下ろすことによって250席を設ける。全部下ろしたら500席ということも可能になってくる。そういう昇降ステージを検討している。

(委員長) 歌舞伎になると、いわゆるプロセミアムアーチという額縁があって、壁が降りて、そこから緞帳が下りてくるということになる。後ろに下げた場合も、県劇みたいにカーテンが下りてくるということであれば出来ると思うが、先ほど出てきたように、歌舞伎には花道そのものが取れないため難しいと思う。

(委員) 固定席の図を見ると、下の方に椅子ではない四角の部分があるが、そういう部分が車椅子の座席になるのか。この図面では寸法が判らないので、ハートビルに適合しているか判らないのだが、当然、視覚用のサイン、音声誘導が入ってくるとは思うが、全国の会場を見ても、ステージから降壇する時や、車椅子の方や足が上がりにくい方が登りやすい補助装置が無かったりする。今の市民会館もそうだが、そのような設備も当然付いてくると考えてよいか。また、車椅子席も端ではなく、ある程度いい場所に確保した場合には席数が変動してくると思うが、席数に拘らず、きちんとした設備を取られると解釈してよいか。

(事務局) その部分については十分配慮していきたい。客席の方からステージに上がる車椅子対応についても検討させていただきたい。

(委員) 一つは、母子室を今回計画されているか。母子室もあった方が良い。母子室は講演会の時に、小さいお子さんを連れてきた人のためのガラス張りの部屋であるが、そういうものが必要ではないか。もう一つ、断面を見ると、1階

の客席の一番後ろの席から見上げると 2 階席の鼻先が少し張り出しており、プロセミアムアーチの上方が欠けている。この辺をちゃんと見えるような視界の確保をしていただきたいという要望だ。

(委 員) 下の図面から見ると、仮設席を 500 設けた場合、後方から見るとステージの壇上に登壇された方が小さくて見えにくい。そういう場合に、途中にはスクリーンを想定しているのか。

(委 員 長) 補助スクリーンか。

(事 務 局) どうしても距離が長くなってくるので、スクリーン等で補助できるものを考えていきたい。

(委 員 長) 現段階は、模式的に描かれていると思う。実際のデザインの中で、細かく設計していただきたい。

(事 務 局) 先ほどの市民会館と森都心プラザのステージの奥行きだが、市民会館は 19.8 m、森都心プラザは 8.5m。

(委 員 長) 説明があったが、市民会館が 19.8m ということ。今回の案よりは少し奥行きが狭い。ただ、実際には水平線が前に下りたりするので、そんなには使っていない。森都心プラザが 8.5m ということなので、仮設席を設けたとしても森都心プラザクラスは何とか確保できている。ただ、狭かったという指摘からすると、500 を取るのは難しいかもしれない。仮設席用にステージを 3 枚くらいに下ろすということで、中間の席の確保の仕方は出来るかもしれない。このような形で 3,000 に近いものをつくっていきたいということだった。

5. 施設構成について・・・P 4 ～ 32

(事 務 局) 説明

(委 員 長) 6 ページに戻っていただき、今回説明があった C'案、D'案、E 案の概要比較ということだが、費用面ということであれば、最終ページということになる。前回の C 案が出てきた時に、多目的ホールが舞台裏にあったのだが、かなり厳しい。使い勝手も良くないということで断念するという話があった。ただ、前回の会議の中で何とか確保できないか、重要性ということについても議論があったので、今回は国際会議用のスペース、会議室とある程度オーバーラップさせることで再度確保しようということが出てきたのが C'案ということになる。あと、少し天井を抑えることで可能にしていたが、もう少しイベントホールにしても、国際会議ホールにしても、多目的ホールにしても、天井を十分取ろうというのが D'案ということになる。その分、一層増えた。いわゆる会議室も 2 層になってきたりした。その分ゆったりとれたというのが D'案ということ。E 案というのは、以前の会議で出ていたように、何とかメイ

ンホールを1階に下ろせないかということを出てきた案になる。ただ、この許された敷地の中で処理していこうとすると、結構厳しい。メインホールの上に物を置けないということもあり厳しいという説明だった。あとは延床面積がどうなっているかという、C'が33,820㎡、D'案は37,170㎡。E案はメインホールの上に物を置けない、境界が決まっているということで結果的に床が小さくなった。だから苦しかったということだった。地下に下げたのだが、結果的に床面積が小さいので、コストはA案に比べると少し下がったという説明だった。それでは、それぞれについて意見を頂きたい。

- (委 員) 10 ページに、コンコースというのがあるが、コンコースの入口の部分のイメージはどの段階で決まるのか。空間に影響するのであれば、商業の方は入口性が明確な方がよい。下からの上がり方や商業ビルの2階の構成がどのようになるか。
- (都市建設局) 再開発事業においては、事業者の方で施設の構成も含めて検討中。コンコースの入口については、エスカレーターという形で、2階レベルになるため、シンボルプロムナードからはバリアフリーに配慮した形で上がっていく。当然ながら、シンボルプロムナード側に、2階レベルでは賑わいの施設として商業施設が配置されていく。そういう意味で、コンコースに向かって開いた形での施設配置も含めて、今後、事業者側に対し、言われた意見を踏まえて調整しながら、より開放的なコンコース、上がりやすいイメージで考えていきたい。
- (委 員) コンコースそのものがどういう空間になるのかも含め、この委員会である程度注文を出していた方がよいと思うので、ぜひ最後のまとめの段階でそういったコメントを付けていただきたい。
- (委 員 長) 仮にも国際会議場のアプローチ、1階からも直接入れるが、これがやはり大きな入口になるので、ふさわしいアプローチというのが重要な要件になるだろう。ご指摘いただいたことは、まとめの段階で申し送るようにしたい。
- (委 員) 今の話に関連するが、10ページの商業の南側の部分を見ると、2階エントランスとの境界の位置に風除室が描いてあり、ここからも2階エントランスに入れるように見える。これも要望だが、出来れば風除室から建物の南側に半外部空間でもいいが、回廊があって、ちゃんとシンボルプロムナードと回遊性というか、コンコースからMICEのエントランスを抜けて、外部につながるような回遊動線があると、使いやすくなるので、検討して欲しい。
- (委 員 長) ちょっと判らなかつたが、これは2階だが、シンボルプロムナードあるいは、南側の道路からこの商業と書かれている施設の2階にどこからか上がる。今言われたのは、商業という施設の南側の端に沿って、何か半戸外か屋内か判

らないが、通路を用意して欲しいということか。コンコースは、基本的には、商業が開いていようが、開いてなかろうが通れるということだが、商業が開いている時には、南側に2階からもアプローチ出来るようにということか。青いところの右下に四角い箱が描いてあるが、これを風除室と読んだ。

- (委 員) そうだ、線が描いてあるので、これは入口であろうという希望的観測だが、ここを出てちゃんと東側の方に向かって1階に降りられるようにすると動線が回る。
- (委 員) イベントホールのサイズの件で、短い方が約27m、長い方が61mくらいと思うが、私どもが展示会を实际やっていく中で、今現在、国際規格でいくと、3m角が1ブースのサイズというのが頻繁に出てきている。これを配置した時に、現在の数値だと、非常に間取りが悪い。出来るならば、27mを30mくらいに取れるかどうか検討してほしい。
- (事 務 局) 27mを30m、あと3m延ばすというのは、検討の可能性があるので、検討させて頂きたい。
- (委 員 長) どの案を取るかという話があるが、もう少し、今出たものについて、ご意見を頂きながら、案そのものを読み込んだ方が良いと思う。気になるところ、あるいはもう少し知りたいところについてご質問、ご指摘等いただきたい。
- (委 員) 以前の会議の中でも議論が出ていたと思うが、このメインホールの評価というのは、内部空間だけではなく、ホワイエからの眺めという問題が非常に大きい。これが熊本らしさというか、他にはないものになってくる。ホワイエの空間から屋上庭園をこえて熊本城が見えるのは宝だと思う。そういう案が良いという印象を持っている。いつまでここをホワイエと呼ぶのか、早くネーミングを考えるのが重要だと思う。熊本城を望むという何とかの間とか。用途空間としてのホワイエという名前無く、少し性格が出るようにしておいた方が良く思う。ぜひ、図面の中でも熊本城をどの方向に見えるのかという矢印を描いていただくと、素人にも判りやすい。
- (委 員 長) この図(P15)で言うと、屋上庭園になっているようだから、このホワイエと描いたところからは見えるはず。これは、いわゆる客席の最後部からホワイエに入る、で、コンサートなり、会議が掃けた後、屋上庭園を通過して、段々外へ帰っていくということも想定してよいのか。いわゆる内部のエスカレーターを帰るのではなく、いわゆる外を、全体計画との兼ね合いになるが、想定できるのか。
- (事 務 局) 十分想定できるので、ホワイエから屋上庭園を抜けて帰っていただく。そういうことも想定できる。
- (委 員 長) この図、15ページを見ると、屋上庭園と描いたところの左端をずっと廻って

- 下の方に降りる階段があるが、これもそういう形のものと思っていいのか。
- (事務局) 今のところ、そこから出て避難階段とか、その辺りの部分を想定している
- (委員長) これは避難か。
- (事務局) はい。
- (委員長) 屋上庭園も避難も含めて出来る。日常的にも使えるけれど。
- (委員) 以前頂いた資料の中で、C'案の場合、コンコースと2階エントランスの床高が異なって、段差処理が必要だと指摘がされていたが、今日頂いた資料にはそれがなくなっている。これは解消されたと考えていいのか。
- (事務局) 10ページのところになるが、コンコースから入って、MICEのエントランス、2階のエントランスとなるが、そこからホワイエの間に若干段差が生じているため、エスカレーター、階段を配置しているところ。
- (委員長) 基本的には解消されているということで良いと思う。7ページの断面図をご覧頂くと、上の図だが、バスターミナルがあって、上にエントランスと描いてある。ここのレベルで、プロムナードから入ってくるが、この図では、ホワイエと描いた絵がちょっと高くなっている。これは多目的ホールとフラットに作っているから、この2階エントランスから入ってくると、ここで半階とはいわないが、少し上がった絵になっている。これとさっきの平面図とはちょっと変わっていて、さっきの平面図では2階エントランスと描いたところの床からずっと来て、ホワイエの上まで来て、多目的ホールと描いたところからちょっと上がっている。そういう設計に変わっている。そういう段差を解消するために、エスカレーターの短いものを付けたと言われた。10ページの方に、コンコースからずっと平らに入ってきて、MICEエントランス、2階エントランスが同一レベルできている。その横でホワイエという多目的ホールの横は、そこは下との高さの関係で、少し上がっている。そこで短いエスカレーターで上がる、あるいは階段で上がるとなっている。そういうことから、解消されたと言えるし、多目的ホールに対しては段差が残っていると考えていただくとよい。
- (委員) C'案とD'案の比較だが、10ページと20ページを見比べていただきたいが、2階エントランスから4階のメインホールのエントランスを結ぶ動線についてだが、10ページを見ると、2階エントランスから直通のエスカレーターがある。20ページのD'案では直通が無い。21ページの方(3階)に上がって、21ページのレベルからメインエントランスに上がっていくということだが、D'案も直接2階エントランスホールからメインホールに上がった方がよいと思う。それが物理的に可能かどうか聞きたい。つまり、コンコースから来た人が直接ホールに行けた方が、いろんな意味で良いだろうということ。

- (事務局) まず、10ページの方は収まるが、D'案でここに配置した場合、エスカレーターが長くなるということで、収まるかどうか微妙なため、少し検討させて頂ければと思う。
- (委員長) エレベーター前に出っ張ってしまうだろう。右側にエレベーターがあるが、その前をエスカレーターが通らざるを得ないのではないか。ホールの方を見ると、後ろのほうにエスカレーターをずらすことが出来ないだろう。
- (委員) 下をくぐれるかどうか。エスカレーターが頭上を交差していく。下を通れるかどうか。通れるのであれば下を繋げた方がよい。
- (委員長) 確かに、メインホールへ行くのに一度横向きのエスカレーターを上がって、それから行かなくてはならない。少しややこしい。
- (委員) 使える床が減ってしまう。ほとんど動線になってしまう。
- (委員長) 今のままだと、20ページの絵でいくと、コンコースを歩いてきて、2階のエントランスに下の方に入ってくる。それで、メインホールに行くためには、2階エントランスの下の方にエスカレーターが3本描いてあるが、これに乗って21ページの3階に上がる。そこからさらに上のほうに行き、エレベーターの先にあるエスカレーターで上がっていくということだ。一層増えたので、この辺がややこしくなった。
- (委員) ややこしさもあるが、D'案のいいところは、多目的ホールとか会議室を独立して使えるというメリットがある。そういう意味でも動線をきちんと分けた方が、独立運営がしやすいのではないか。
- (委員長) 6ページに戻っていただき、C'案、D'案それからE案について質問をいただいているが、C'案とD'案の違いというのは、イベントホール、多目的ホールの階高が高く取れているということ。C'案だとD'案に比べると階高が低くないっているということだが、これは使えるのかという話になるが、その辺りが今どういう数字なのか。高ければ高い方がいいのだが、C'でも十分高いと言えるのか、説明をいただきたい。
- (事務局) C'案とD'案でのイベント展示ホールの天井高が違うというのが大きいですが、C'案では7mしか取れていなくて、D'案が9m取れている。面積等が2,000㎡弱になるため、今のところ催事を考えれば6m。7mあれば十分催事に対応可能と考えている。C'案で7mと考えている。
- (委員長) 特に支障が無いはずだということ。今6mという話があったが、余裕があると。課題としてD'案として、一層多くなるので、床面積が大きい、取得費が増加する、最終ページにはお金の話が載っているが、そういった状況の中で、C'案とD'案とどちらが良いのかという議論が一つある。今、委員の方からD'案の方が、今のままでは動線が良くないが、もう少し直すとすれば、多目的

ホールと会議、上のホールを分離した運営がしやすそうだ。余裕が出た分、そういうことが言えるという話が合った。あと、E 案については、メインホールが一階に降りたことで、物の搬入が良くなるということで設計してみたが、結構厳しいという説明があった。搬入が 1 階にはあるが、あまり何台も取れない、26 ページになるかと思うが、一階に降りたという点は大きなメリットだが、荷捌き用の車両が入るスペースがあまり取れない。隣の駐車場の方に少しスペースをもらって、お尻を突っ込むような形で運用しているということだ。ホールとしては、面積的に控室、あるいはホワイエ、エントランスというものがかなり窮屈だ、という説明があった。先ほど眺望といった特徴で C'案、D'案をサポートする意見を頂いたが、E 案について、一階に下ろすというメリットがあるが、結構厳しいということだが、この辺りについて意見をいただきたい。

(委 員) E 案に対しては、前回施設全体の見直し、検討していく課題として、バスターミナルの問題についても検討すべきだという意見が合ったが、今の説明でいくと、1 階に下ろした利点というのは、コスト的にも大変いいかなと思うが、床面積が非常に狭くなっているということで、図面からすると、課題がたくさんあると思うが、先ほどの説明の中で、地下を 2 階までという説明があったが、熊本市は地下 2 階まで掘削をしたことがあるのか。地下水の影響とかがあると思うが、地下 2 階までの調査というか、これまで検討したことがあるのか。どこまで地下を掘ったことがあるのか。

(事 務 局) 地下水の問題があるが、隣に地下駐車場があつて、地下 3 階か 4 階かある。ただ、あらためて地下水の問題は十分に検討すべきと思うので、検討させていただきたいと思う。

(委 員) それと、バスターミナルも検討すべきではないかということだった。1 階にこれをもって来る場合以外に、バス動線を 2 階とかに持ってくるとかそういう提案をいただいているが、バスターミナルの検討をした結果はいかがなものか。床面積が狭いので、課題があると思うので、バスターミナル自体を検討すべきではないかということが前回出ていたが、その辺りはどう考えているか。

(都 市 建 設 局) まずバスターミナルの位置の話だが、26 ページで言うと、こちらの図面の南側の道路、横に走っている道路がある。こちらが今の交通センターの南側で入口側の道路になる。ちょうど真ん中くらいに交差点形状があると思うが、バスターミナルを設置するときには、こちらの道路に直接バスターミナルの方から左折、もしくは直進ということで、ここの交差点を生かし、バスターミナルの出口を設置する。そういう関係で、1 階の位置がこちらの交差点に

接するということになる。そのような形で、MICE の施設の位置がこのような場所に決まっているというのが一点。それと、博多方式、2 層 3 層という話になるが、逆に 2 層 3 層になると、2 層目 3 層目のバスが走る車路の部分の面積が余分にかかる。それが一点。それとやはり、熊本のバスターミナルの利用者の大半が路線バス利用者ということで、今も 1 階で利用されているということもあり、1 階に配置するというので、このような現在のバスターミナルの位置というものが検討されたという経緯がある。

(委 員) 今の説明の中で、これらの案が出来ていると思うが、それであるならば、素人だが、E 案は 1 階に持ってきて欲しかったが、非常に厳しいのかなという答えではなかったかと思う。そうした場合に、これから検討されていくことだと思うが、C'案が良いのかと思う。

(委 員) E 案についてだが、26 ページを見ると、圧倒的なホワイエの不足、それと、控室もぜんぜん足りていない。ということからすると、結構厳しいかな、というのが正直な見解。あまり案としては成り立っていないという印象を受ける。

(委 員 長) ローディングドッグというのが地面にあるということで、便利にということで設計したのだが、結果的にそこがあまり生きていないということで、あまり下げた意味が無かった。面積が足りないという問題が出てしまった。

(委 員) C'案が良いと思うが、いろんな会が始まる時はばらばら人が集まってくるが、終わったときに、一番上で 2,000 人近く、3000 人近くの人がいっせいに帰るわけだが、帰る道は 2 階のコンコースを使っていくか、あるいは 1 階の入口からバスターミナルに行くか、あるいは地下に行ってタクシーを利用するかという、3 つを利用する。バスターミナルがあるので、すぐにバスを利用できるということで非常に良いと思うが、この図面ではバスターミナルへの道筋が読みきれないが、1 階までに行くというよりは、コンコースから直接下に降りて、バスの停留所に行けるようにすると利便性が上がると思う。それと、一番下にタクシープールがあって、車が流れるとは思いますが、わざわざ地下に行って、タクシーが詰まってしまうと、混乱がでてしまう。そのような人の帰りの動線がスムーズにいくようにもう少し考えていただきたい。先ほど意見が出ていたが、いくつかの動線が流れるように考えていただければありがたい。

(都市建設局) まず、バスターミナルの動線だが、2 階のコンコースから当然ながら、バス利用者もコンコースを使って、シンボルプロムナードとかの動線を考えているので、バスターミナルからエスカレーター等でコンコースへ行く動線を当然、上下 2 箇所ほど現在計画をしている。ということで、コンコースからバ

スへの誘導も今よりも判りやすいバスターミナルというのも念頭において検討しているので、そこら辺は十分に検討しながら計画している。

(事務局) もう一点は、メインホールで2,000人、3,000人の集会が終わった後の動線については、もう少しはつきり描いた上で示していきたい。

(委員長) 屋上庭園からの避難路の話があったが、屋上庭園を通過して商業施設へ行く、あるいは降りていくというルートも全体計画の中で検討していただくと、なかなか素敵なホールになるのでは。イベントが終わった後、エスカレーターで細い通路を通過して行くのと、熊本城を見ながら帰っていけるといのでは、かなり違って行くので、その辺は全体計画の中で検討いただければと思う。

(委員) 今、いろんな案の中で、D'案の場合には、多目的ホールと国際会議場は別だということで、別に1,040㎡の多目的ホールを確保されているが、C'案は多目的ホールと国際会議場の兼用という形での1,040㎡ということだが、国際会議の場合は通訳ブースだったり、施設的に固定施設で入ってくると思うが、そうなった場合に、多目的に使えるスペースというのはかなり限られてくると思う。D'案は多目的ホールが1,040㎡使えるが、C'案は国際会議のブースを設けたときに、実質的に1,040㎡は使えない気がする。どちらかというところ、国際会議というのは件数的なものからすると、限られてくる中で、どういうイメージで兼用の部屋を考えているのか。施設的な面で、スペース的な面で。

(事務局) まず、それぞれD'案で多目的ホール、国際会議ホールを独立して計画したが、他都市の国際会議ホールの稼働率を見た場合、どうしても50%前後の稼働率であるということと、合わせて、どうしても他の会議室より利用料金が高く設定されている、そういったこともあり、稼働率が良くないというところの他都市の状況もある。そういったことも考えれば、多目的ホールと国際会議ホールを兼用にした方が一番良いのではないか。水銀条約会議でも、日航のバンケットでも開催されたように、ああいった形で、十分国際会議でも対応可能と考えたところでのC'案の兼用案を示したところ。

(委員長) C'案とD'案、20ページと21ページを見比べて、21ページのD'案というのは、上が国際会議ホール、下が多目的ホールとなっている。C'案は多目的ホールは書いてあり、上は何も描いていないが、これは違うのか。一緒ではないのか。高さは違うという話があったが、これは室名が落ちているだけで、表現は一緒ではないか。

(事務局) そうです。あくまで、兼用で国際会議としても使える。ただ、国際会議をする場合には、仮設の同時通訳ブースを作る必要がある。

(委員長) 今、D'案とC'案とで、今質問を頂いたことにおいては、差は無いということではないのか。

- (事務局) D'の場合の多目的ホールと、国際会議ホールと分けている場合は、会議ホールの方に同時通訳の固定のブースを用意するようなイメージ。C'案の多目的ホールの国際会議ホール対応というのは、同時通訳を仮設で対応するというイメージで描いている。
- (委員長) 設計上は同じようにすることが出来るのか。
- (事務局) ホールの形状とか質感とか、可能だと思う。
- (委員長) 今のこのレベルの図面では一緒だといってもいいのか。
- (委員) 今の話で行くと、D'案は国際会議場が別に独立しているから問題ない。国際会議はそちらです。専用で分けている。C'案は多目的ホールで、国際会議がある場合にそこは使えますよということで、持込の通訳ブースなりを持って来てするという事か。多目的で使う場合は1,040㎡使えますという説明なのか。その時に、せっかく施設を作るのに、その都度会議する方が負担となって多目的ホールに持ち込まなくてはならない、というのは、やはりここで開いてください、国際会議が出来ますよという話であれば、他の施設を見ても、通訳ブースだったり、ブースケーブルだったり、必要になるのではないか。考えは判るが、そういう面では、利用する人たちが利用しやすいような形で、なるだけ設備は整っているというのがいいのではないか。出来れば、1,040㎡の中で、そういうものを置いたら、多目的として使えるのはどのくらいという意味で聞いた。今の話で2つ分けているということであればいい。
- (事務局) 2案示しているのは、そこをご議論頂きたかったわけで、国際会議の専用のホール、同時通訳のブースを持っている国際会議室がやはり必要なのか、それとも事業費が大きくなるということ、階層が増えるということもあるので、多目的ホールに同時通訳ブースを持ち込みということで国際会議に対応するという考え方もよろしいかということで、その点についてご議論いただきたいということで2案示させていただいた。
- (委員長) 判らなくなったが、同じ大きさの部屋があるが、C'案もD'案も。天井高がちょっと違うところがあるが。C'案を、D'案と同じように多目的ホールを1,040㎡、上にある430㎡の室名がないところを国際会議ホールとして、同時通訳ブースを設置することが可能なのか。天井が低いから無理だというのはあると思うが。
- (事務局) C'案でも、同じ天井高さ、こちらの会議室は天井高を抑えた形にしているが、同じフロアなので、天井高を取ることは可能。
- (委員) 6ページを見ると判るが、6ページで全然高さが違う。兼用の場合と独立した場合で違う。その違いをきちんと説明しないと。C'の国際会議対応というのは、当然ながら同時通訳の設備が入っていると私は理解したのだが、この会

議場が他と比較して、選ばれない会議場ではなく、選ばれると、ただ、多目的ホールと国際会議を同時には出来ないという意味で私は理解した。

(事務局) 説明が判りにくくすいません。C'案の2階にある多目的ホールの横にある会議室は、5mの天井高を確保することは可能。

(委員長) 確かに、天井高が関係あるが、後は費用との関係で、国際会議ホールという名前をこの430㎡に付けて、それに相応しい部屋にするかという問題で、C'案とD'案との大きな差とは言えないと考えてよいか。今までの意見からすると、E案は結構厳しいというのが皆さんのご意見かと思う。今日、出来ればC'案で行くのか、D'案で行くのか、さらに折衷案が出るかもしれないが、その辺りをもう一度ご意見を頂いてと思っている。大きな違いは、面積がかなり違う、したがって費用が先ほどの説明でいくと、20数億から40数億の差になるということだった。後は、当然D'案の方は面積が広い分、ゆったりしている、先ほどの天井高もゆったり出来ているというのがある。どうでしょうか、事務局の方は、今日C'案で行くのか、D'案で行くのか決めた方がいいのか、あるいは皆さんのご意見が出ているので、出来ればD'案で行きたいという思いもあるようだ。もう少し詰めて、コストも出してということもあるかと思うが、どのように考えたらよいか。

(事務局) まず、利用見込みについては、主要室のメインホール、展示ホール、会議室そういったものがC'案とD'案とほとんど変わっていないので、利用見込み、経済波及効果を出すことは出来る。ただ、その後の費用対効果になると、事業費との兼ね合いもあるので、そこを出した上で、費用対効果というものをお出しするという方向になって、C'案、D'案と2つの案を出すことになる。

(委員長) それで良いということか。

(事務局) はい。

(委員長) 基本構成がほぼ一緒になってきて、あとは、面積と費用の話、それからゆとりの話になったかと思う。

(委員) 構成はやはり違うと思う。やはりC'案とD'案の大きな違いは、10ページを見てお分りのように、多目的ホールと国際会議場がコンコースレベルにある。これを上手くやれば売りになる。人がいっぱいになる。多目的ホール、国際会議場と一緒にやる。逆に言うと、上手くやらないと落ち着かない。多目的ホールとか国際会議場の横で、ざわざわとした喧騒がある。D'案はそれを切り分けている。コストの面もあるが、構成の選択として、2階のレベルにまとまったイベントが出来るようなスペースを造るかどうかが、接点を作るかどうかの選択が大きい。

(委 員 長) D'案の持っている意味というのは、ご指摘があったと思う。今度、あと 2 回会議もあるので、C'案,D'案をもう少し改訂したものを出していただくと同時に、費用をもう少し精査していただく。費用の話はここで議員の皆様がおられるので、ご判断いただけるかもしれないが、ここでは、次回 C'案,D'案の費用を含めて再度ご議論いただくということでいいか。

(事 務 局) 2 案残ると、作業は大変だが、対応可能なので、2 案で検討させて頂きたい。

(委 員 長) そういうことであれば、D'案でいくといろんなメリットがあるという指摘もあった。ただ、動線が生かしきれていないという話もあったと思うので、その辺りを詰めていただくことと、コストと費用対効果を次の委員会に出していただくということでいきたい。本日用意したものは以上だが、他になければ今回は、E 案は断念した、C'案,D'案をもう少し詰めながらコストまで行くということをお決めいただいたということで、本日の審議を終わりたい。次回以降の審議の件で、事務局からお願いします。

(事 務 局) 事務連絡

6. 閉会